



てんえいしょう だより

「てらす笑顔がひろがる みんなが主役

笑顔をたいせつに いつでもやさしい天栄小学校

鈴鹿市立天栄小学校
発行 校長 松岡 宏樹
令和 8 年7月10日
No.11



生成 AI パイロット校事業

カラー版はホームページで

昨年度天栄中学校区で取り組んでいた「リーディング DX スクール事業」は、令和 8 年度からは、名称が「生成 AI パイロット校事業」へと変わりました。今年度も 10 月と 2 月に、京都教育大学の久保紀一朗先生をお迎えして公開授業を行う予定です。これに先駆け6月には校内での研究授業を行い、教育委員会からの助言もいただきながら、日々の授業改善に励んでいます。

先日開催された「第 2 回学校運営協議会」では、こうした授業改善の方向性や、これからの時代に子どもたちに必要な力、そして地域・保護者の皆さんにどのようにお力添えをいただきたいかについて説明いたしました。その一部をこの紙面で紹介します。



これからの子どもたちに必要な「3つの新しい力」



- 授業の中で、学習目標や一緒に活動する友だち、相談相手など、子ども自身が「自分で選択する場面」を設定しています。
- ペアや小グループ相談し合ったり、課題に取り組んだりして、友達と粘り強く話し合う活動を行っています。
- 答えを出すだけでなく、「なぜそうなのか」を相手に伝えるために思考ツール等を活用して整理する練習をしています。

心得①：すぐに答えを教えず、言葉を「聴く」



- 子どもが悩んでいると、つい答えを言ってしまう。少しだけ我慢して、「どこで手が止まっているのかな?」と子どもの様子をじっくり見てあげましょう。
- 答えを教えるのではなく、答えにたどり着けるようサポートします。「ここを見てみて」「学校で習ったこれと似ているね」等、手がかりへと「つなぐ」言葉を意識してみてください。

心得②：「わからない」を大歓迎する



- 周りの目が気になると、子どもだけでなく大人であっても、つい「分かっているふり」でやり過ごしてしまうことがあります。
- 困っていることを「わからない」と伝えるには、勇気が必要です。子どもが「わからない」と言い出せたときは大歓迎し、安心して次の一步を踏み出せるように見守っていきましょう。

心得③：結果ではなく「プロセス」を褒め、じっくり待つ



- 子どもの成長は、目に見えて右肩上がりに進むわけではありません。すぐ結果が出なくても、あきらめずに続けていると、グンと伸びる瞬間がやってきます。焦らずに、粘り強く見守ってあげてください。
- これまで「できた」という達成感をあまり味わったことがない子は、すぐにあきらめてしまいがちです。それは特別なことではなく、自然な姿です。横に並んで一緒に歩む「伴走者」のような気持ちで寄り添ってあげてください。

着衣水泳(5、6年生)

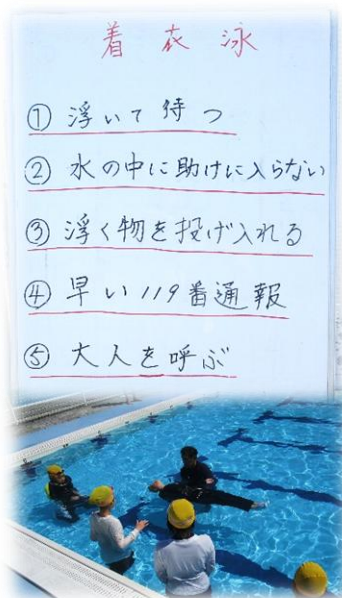
7月9日(木)、5・6年生では、鈴鹿消防署の職員の方を招いて一般的な洋服など日常的に着ている衣服を着たまま、水の中に入って、命をどのように守るかを教えてもらいました。

【夏休みの水難事故防止のために】

- ・子どもだけで川や池、海に遊びに行かない。(出かけるときは、必ず責任もてる大人の人といっしょに行く。)
- ・大雨が降ったり、台風が近づいたりしたときは、川や水路に近づかない。

【保護者の皆様へ】

- ・危険な場所で遊んだり泳いだりしている子どもを見かけたときは「危険だからやめなさい。」「ここで遊んではいけません。」等声かけを積極的に行ってください。



安心・安全な水泳授業へのご協力、ありがとうございました

今年の6月から7月にかけては、近年の猛暑に比べると幾分過ごしやすい日が多く、水泳の授業も順調に進めることができました。期間中は、地域のボランティアや保護者の皆様に温かい見守りをいただき、心より感謝申し上げます。皆様のおかげで、大きな事故もなく、子どもたちは安心・安全にプールでの学習を楽しむことができました。今後も様々な教育活動において、子どもたちのサポートや見守りをお願いすることがあるかと思いますが、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



水泳の授業の時、見守りありがとうございました。大きな事故もなく、子どもたちは安心・安全にプールでの学習を楽しむことができました

